

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 4 日

【評価実施概要】

事業所番号	3691700011
法人名	社会福祉法人 博友会
事業所名	グループホーム ふるさと
所在地	徳島県吉野川市山川町祇園51番地2 (電話) 0883-42-7180

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 12 月 1 日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 17 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤: 11人、非常勤: 4人、常勤換算: 1階 7.6人 2階 5.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造・耐火構造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,550 円	その他の経費(月額)	電気代3,600円、ガス代1,800円、水道代600円、その他実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 17 日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.06 歳	最低 77 歳	最高	96 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三木リハビリステーション病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームふるさとは高越山の麓にあり、旧山川町から阿波市まで見渡せる小高い丘の中腹に位置している。木材の持つぬくもりや肌ざわり、香りをを大切に内装には天然杉を使用している。共用空間には利用者の手による手芸品や生け花が飾られている。利用者はお互いに入居前から知り合いや顔見知り同士であり、「住み慣れたところで、馴染みの人たち」の間柄で地域に密着した環境である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な課題である「重度化や終末期に向けた方針の共有」については、家族や主治医と相談しながら対応策を検討するといった方針を関係者間で共有し、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解して全職員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族会、地域住民代表、市福祉事務所職員、地域包括支援センター職員、法人苦情相談人、管理者及び事業所関係者で構成している。会議では感染症予防や外部評価結果、人権研修などについて協議している。また家族アンケートの集計結果を用いてサービスの質の向上に向けた討議も行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や苦情などは来訪時に聞いたり、アンケートを実施するなどして把握している。要望等については職員会議などで討議し、サービスの質の向上に繋げている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校の運動会、地域の秋祭りや清掃活動、老人会の芸能大会などに参加し、交流を深めている。地域の中に入っていくことで理解が深まり、ボランティアの来訪などもある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を作成し、地域の人々と馴染みの関係を築いている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングや各部署ミーティングで理念を共有し、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会、地域の秋祭りや清掃活動、老人会の芸能大会などに参加し、交流を深めている。地域の中に入っていきことで理解が深まり、ボランティアの来訪などもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解して全職員で自己評価に取り組んでいる。また外部評価での課題について職員間で検討し、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族会、地域住民代表、市福祉事務所職員、地域包括支援センター職員、法人苦情相談人、管理者及び事業所関係者で構成している。会議では感染症予防や外部評価結果、人権研修などについて協議している。また家族アンケートの集計結果を用いてサービスの質の向上に向けた討議も行っている。内容は記録に残して職員間で回覧し、確認印・サインがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当窓口を訪問したり、市担当者に来訪してもらって制度の説明をしてもらうなど、共にサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の状況を報告したり、月1回の便りで暮らしぶりや健康状態を伝えている。急な状況変化時には電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に聞いたり、アンケートを実施するなどして意見などを把握している。要望等については職員会議などで討議し、サービスの質の向上に繋げている。また職員からも意見を出してもらい、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑え、利用者への影響を防いでいる。異動の際には、引き継ぎ期間を1か月設けて職員を重複して配置し、利用者が混乱しないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は年間計画を作成し、職員は順次参加している。また職員の段階に応じた育成にも努め、特に資格取得に向けて有資格者がアドバイスをを行うなどしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部が主催する研修会に参加した時などに同業者と交流し、情報交換などを行っている。また職員は個人的なネットワークも築き、行き来しながらサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族と面談し、家庭環境や生活状況を把握したり、事業所での生活の様子を伝えるなどしている。また入居後は場の雰囲気に馴染めるよう、家族と相談しながら接し方や環境づくりを工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から昔の事を教えてもらったり、調理や掃除などの家事を分担することで共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努めている。また家族等と相談しながら利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望や家族の意向を取り入れ、担当職員が中心となって話し合い、介護計画を作成している。計画書には利用者・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、短期・長期目標の期間に応じて見直している。また状況変化の際には、利用者や家族等と話し合い、現状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と相談しながら受診時や入院中の知人の面会に付き添うなどしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。また協力医の定期的な訪問診療も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、家族や主治医と相談しながら対応を検討し、全員で方針を共有している。また年々重度化する利用者のために、法人内でターミナルケアに関する研修を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報などの書類の取り扱いを厳重に行ったり、排泄介助時などの言葉かけをさりげなく行うなど、利用者の尊厳を損なわない気遣いを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、外出や家事手伝いへの参加は本人の主体性を尊重し、希望を聞いて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は調理の下ごしらえや盛り付け、後片付けなど利用者一人ひとりの能力を活かしながら一緒に行い、食事を楽めるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽めるように支援している	入浴の曜日や時間は特定せず、利用者の希望にそって支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の精神・身体状況により、掃除や調理、ゴミ捨て等の役割をもってもらえるよう支援している。また手芸の得意な利用者にホールの飾り付けを手伝ってもらうなど、気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	森や神社を有する敷地を利用し、利用者の希望にそった散歩などの外出支援を日常的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間と日中を想定した防災・避難訓練を年に2回、実施している。地域住民との協力体制を築き、連絡マニュアルも整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事・水分摂取量を記録している。食事内容は、併設施設の管理栄養士からカロリー計算や支援方法について指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内の壁面やドア、床には木材を使用し、ぬくもりを感じる事ができる。ホールから出られる中庭には池や花壇があり、利用者は自由に散歩したり、日向ぼっこしたりしている。また軒先で干し柿を作るなど、生活を感じさせる環境がつけられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた箆笥や椅子など好みの家具を居室に持ち込み、居心地よく過ごせる居室づくりを行っている。		